

# 会 議 録

## 1 会議名

平成26年度 第4回和田区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

(1) 副会長の選任について（公開）

(2) 第5次上越市行政改革大綱（案）と公の施設使用料の見直しについて  
（公開）

(3) 地域活動支援事業の課題と改善策について（公開）

(4) 意見交換（公開）

和田区の人口と世帯数の動向から考える和田区の将来

## 3 開催日時

平成26年11月6日（木）午後6時33分から午後8時33分

## 4 開催場所

ラーバンセンター 第4研修室

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：有坂正平、植木泰行、大島政義、鈴木 孝、高島信雄、水澤俊彦、  
宮下浩二、八木文夫、横田直幸
- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 橋本センター長、森田係長、敷波主任  
行政改革推進課 山田副課長、小関主事  
創造行政研究所 内海主任研究員

## 8 発言の内容

### 【森田係長】

皆様お疲れ様です。定刻を過ぎまして申し訳ございません。先ず、本日の出席人員の確認を行わせていただきます。本日の出席人員は今のところ8名ということで

ございます。欠席の御連絡をいただいておりますのが、秋山澄子委員、それから小林委員、齋藤委員、橋本委員、前川委員、横田晃一委員が欠席です。高島委員におかれましては少し遅れて御参加いただくということでお聞きしております。

上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席がありますので、会議が成立することを報告します。同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることとなります。横田会長よろしく願いいたします。

**【横田会長】**

大変御苦勞様でございます。報告がありましたとおり、ちょっと今日は欠席が多いようではありますが、これより入らしていただきますので、よろしく願いいたします。

では、お手元の次第に沿いながら進行させていただきます。まずは会議が成立するというのでありますので、第4回の和田区の地域協議会を開会させていただきます。

始めに本日の議事録の確認者についてであります。順番から言って鈴木委員さんになっていらっしゃいますので、よろしくお願いします。

ではですね、次第2の「議題の確認」について事務局からお願いします。

**【橋本センター長】**

— 資料・議題の確認 —

**※【副会長の選任経過について説明】**

3の「副会長選任」という項目があります。先月24日に秋山副会長が辞職されましたので、副会長の選任を本日行うということになっております。

**【横田会長】**

はい、ありがとうございました。よろしいでしょうかね。本日の会議は2時間ほど予定しております。8時半頃には終わりたいなと思っております。またこの後、勉強会も予定しておりますので、円滑な会議の運営に御協力をくださるようお願い申し上げます。

では次にですね、次第3の「副会長の選任について」であります。今ほども議事の確認でお話がありましたとおりでございます。このため、本日は副会長の選任を

行いたいと思います。そこで先ず、この選任方法について、御意見も含めましていかが取り計らったらいいか、皆様にお諮りさせていただきます。いかがでございましょう。

どのような方法というか、どういう進め方、決め方をしていったらよろしいか、はい、御意見あれば…。

はい、鈴木委員さん。

**【鈴木委員】**

前回の秋山さんの選任の時の経緯からして、大和地区のほうから選出していただいたらどうでしょうかね。と思いますが。

**【横田会長】**

はい、鈴木委員さんからそのような御意見、まあ先例を踏まえながらというお話だと思いますが、それ以外の方法、まあ立候補も含めてですけれども、それ以外の方法、御意見ございましたら。あるいは今、鈴木委員の御意見についても、それも含めてお諮りさせていただきます。いかがでございましょう。

格別ないようであれば、今の鈴木委員さんの御意見に沿って進めるということでもよろしいでしょうか。

(よしの声あり)

はい。であればですね、前回の事について確認の意味を含めて、前回というか、当初と言いますかね、ちょっと事務局のほうで紹介していただければありがたいのですが。

**【橋本センター長】**

はい、分かりました。今、鈴木委員のほうからも御発言ございましたとおり、今協議会の正副会長の選任の経緯でございますけれども、平成24年5月でございましたが、第1回協議会において審議をいただいたとおりでございます。その時に先ず副会長の人数を決めていただきました。副会長は1名とするということをお先ず決定をしていただきました。次に今、御発言がございました選任方法をお諮りをいたしましたところ、各委員から第一期の、これは前の第一期のほうの選任の方法にならしまして、大和地区と和田地区、それぞれの地区で1名ずつ出して、その中から話し合いにより正副会長を決める方法というご提案が一点。それか

らもう一点は和田、大和に関係なく、自薦他薦で選出をし、採決により決定をするという二案が提案されたところでございます。採決を行いまして、結果として前段の各地区1名ずつ出して決めるということで、決定をされた。具体的に申し上げますと、大和一丁目から五丁目までを大和地区、それ以外を和田地区といたしまして、二地区に分かれ、報道と事務局は席を外した上で、各地区1名を選任した上で、さらに話し合いによりそれぞれ正副会長を決めていただいたということでございます。今協議会の正副会長の選任の経緯は以上でございます。

**【横田会長】**

はい、ありがとうございます。今、お伺いした上で決めていただいた、大和校区の皆さん方から先ず話をさせていただいて選出していただこうと。それをまた全体によって承認と言いますかね、決定させていただく運びの手続でどうかと思っておりますので、それは今、事務局のほうから話があったものと整合していると思いますので、そのように進めさせていただいてよろしいですか。

(よしの声あり)

はい。

**【有坂委員】**

今日、大和地区の方はそれなりの人数いらっしゃるのですかね。

**【横田会長】**

ええ、今日はちょっと数お調べしたんですけども、全体としては、高島さん見えて6人になって、はい。和田校区よりも幸いというか、相当数いらっしゃると思っておりますので。今、有坂委員のお話もありましたが、そういう理解でよろしいでしょうかね皆さん方。大和校区の皆さん方、今日相当数お集まりいただきますので、これから話に入ってくださいということでよろしいですか。

(よしの声あり)

高島委員さんね、今、副会長のほうの話に入って、そして前例に沿いながら大和校区のほうでお話し合いしていただくと。それは秋山さんが、前回もそうだったからというふうに、今、皆さんから御了解いただきましたので、そこに入っていきたいと思いますので、御理解のほどをお願いします。

**【高島委員】**

はい。分かりました。

【横田会長】

では恐れ入りますけれど、大和校区の皆さん方、ちょっとじゃ別室のほうでお話し合いしていただくと、それ以外はちょっとこれから10分くらい、55分くらい目途にですね、少し休憩させていただこうと思っていますので、この場なりちょっと休憩をいただきたいと。じゃあ大和校区の皆さん方、よろしくお願ひします。再開は、この時計で55分にしたいなと思っていますので。

— 休憩 —

ちょっと御案内した時間よりもスムーズにやっけていただけてありがとうございます。お揃いになりましたので、これから再開したいと思っていますのでよろしくお願ひします。

では先ずはですね、どなたか代表して、今お話し合いされた結果を報告していただければありがたいと思いますが、よろしくお願ひします。

【水澤委員】

じゃ私のほうから。

【横田会長】

水澤委員。

【水澤委員】

はい、すいません。今ほど、大和地区ということで、今日は6人の出席の委員の皆さんで協議をいたしまして、私、水澤が副会長ということで推薦をいただきました。不肖、会長の補佐をさせていただきたいと思っていますのでよろしくお願ひします。

【横田会長】

はい、大変ありがとうございました。スムーズに進行いただけてありがとうございます。

ではあの、水澤委員さん、こちらにちょっと移っていただいて。

— 水澤委員席移動 —

早速ですが、一言、就任。

その前にちょっとあれですかね。皆さま方、この水澤委員に、あの、水澤委員

から副会長を担っていただくということで、御承認いただくということでよろしいでしょうかね。拍手をお願いします。

(一同拍手)

じゃ一つ、一言御挨拶をお願いします。

**【水澤副会長】**

すいません、就任の挨拶ということでございます。今ほど皆さんからの御承認をいただきました、水澤でございます。私も一期から一応、委員を務めさせていただいているのですけれども、なにせ分からないことだらけでこう今まで来ていました。いろいろ勉強する機会が本当に数多くあるのですけれども、これからもその協議会の皆さんと共に、この和田地区をよりよくするために少しでも貢献できればと思っておりますし、力になっていきたいというふうに思っております。副会長という大役、会長補佐ということでございますので、皆さんから御協力いただきながら進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

(一同拍手)

**【横田会長】**

はい、大変ありがとうございました。よろしくお願い申し上げます。

次にですね、次第第4の「報告事項」(1)に入らせていただきます。「第5次上越市行政改革大綱(案)と公の施設使用料の見直しについて」入らせていただきます。行政改革推進課の方のほうから説明を20分程度でお願い申し上げます。よろしくをお願いします。

**【行政改革推進課 山田副課長】**

— 資料に基づき説明 —

**【横田会長】**

はい、ありがとうございました。二つのテーマがあるわけですが、分けてこれから御質疑いただくほうが分かりやすいのかも知れませんが、時間がですねちょっと押しております。これから15分程度ですね、皆さんから御質疑があったら、いただきたいと思っております。今申し上げたとおり、行政改革関係と公の施設の見直しについて、一緒に承りたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。いかがでございましょう。

要領よく説明していただいたので、大変良かったと思っておりますが、ただボリュームが大変あれなものですから、なかなか大変だと思いますが、せっかくの時間を取ってありますので、何なりと御質疑、御意見を含めていただければありがたいと思います。いかがでございましょう。

はいどうぞ、大島委員さん。

**【大島委員】**

市の重点施策はですね、第5次から第6次に向かって計画を進められているという話も聞いておりますが、その中で今、使用料について非常に厳しいお話があって、第6次では、具体的なすこやかなまちとかですね、あるいは人が一人一人元気になるんだというふうなことを重点に市ではおいておられるようですが、そうしますと使用料あたりが厳しくなってくるとですね、ついついスポーツ関係あたりはかなり緩和されている部分もありますけれども、その辺あたりはどうなんでしょうか。お考えになっているのでしょうか、どうでしょうか。

**【行政改革推進課 山田副課長】**

すこやかなまちということで、健康の「健」というふうに、漢字に直すと書いたりもするのでしょうけれども。今回のアンケートの関係で申し上げますと、二種類アンケートしました。一つは市政モニターアンケートですね。それから、あとは施設を利用させていただいている方のアンケートで、やはりどうしても市政モニターの皆さんというのが施設を利用しない方が多いものですから、引上げについてご理解いただいている方が多いということでございます。すこやかなまちとの関係ということになりますと、ちょっと使用料とどんなふうにして結びつけるかというのがなかなか難しいですけれども、今の使っている方が安くてそこでいいということでこのままいきますと、次の世代の皆さん、次代を担う方に使用料だけではないんですけれども、やはり負担というものがのしかかってきます。持続可能な上越市ということを目指していくのであれば、今から手を打っていく必要があるということになります。そんな中での使用料の引上げと、実質引き上げになるのですけれども、引上げしない施設も結構あるんですけれども、そういったことで御理解いただければなというふうに思っております。

**【横田会長】**

よろしいでしょうか。もしあれでしたら。

【大島委員】

はい、分かりました。

【横田会長】

ほかに御意見ございましたら。

はい、鈴木委員さん。

【鈴木委員】

はい、5次の大綱（案）の16ページになるのですが、16ページの真ん中のところですか。（4）の「新しい公共」という言葉の意味なり確認ですが、理解なんです。その下に「避けるべき未来」ということで、共助、公助という二文字がありますね。それに対して新しい公共という意味というか、理解は自助として考えてよろしいのですかね。

【横田会長】

はい、どうぞ。

【行政改革推進課 山田副課長】

自助ということではないのかなと思います。

【鈴木委員】

ではないのですね。

【行政改革推進課 山田副課長】

第1回目に私、こちらにお邪魔させていただいた時に、やはり「新しい公共」のその言葉の意味ということで御指摘いただいたと思います。今回、この資料の2ページをご覧くださいませでしょうか。この資料の2ページの中、その中ほども、「新しい公共」という言葉が出てきてございます。その新しい公共というのは、やはり定義が必要ということで、その欄外の注記のところ、新しい公共というものをこの大綱の中でなんですけれども、「市民が地域や公共の課題を自分たちの課題として受け止め、自分たちで解決していくことと定義します」と、これは大綱の中での定義なんですけれども、そうですね、自助に近いようなそんなイメージでしょうかね。ただ、新しい公共とは言っても、やはり同じ志を持った方たちで行動するということになりませし、そういった方を巻き込んでのその



共助と言いますか、そういったところも出てくるかと思うものですから、ですからイコール「自助」ということではないのかなというふうに考えます。

【鈴木委員】

イコール「自助」ではないということですね。

【行政改革推進課 山田副課長】

そうですね。

【鈴木委員】

そういう考え方で進むということですね。

【行政改革推進課 山田副課長】

はい、よろしいかと思えます。

【鈴木委員】

いや、ここに共助とか公助という言葉が出てきますからね。2文字で表そうとしたら自助という言葉、意味なのかなというふうに、ちょっとこちらのほうで勝手に理解したんですが。

【行政改革推進課 山田副課長】

そうですね。

【鈴木委員】

二文字で表した場合ね。「新しい公共」ということじゃなくて、二文字で表わしたら自助というのかなというふうに思っただけで。勝手に理解したんですが、そうでもない。

【行政改革推進課 山田副課長】

そうですね。二つ文字が出てくれば、そんなふうに。

【鈴木委員】

はい、そこら辺のところはまあ。

【横田会長】

ほかに皆さん方いかがですか。まだもうしばらく、ちょっと時間がありますので。

いかがでしょう。

わたしちょっといいですか。

いかがですか、ないようでしたら、ちょっと私にも発言する機会を与えていただきたいなと思っているのですけども。中身もいろいろちょっと感じるがあるので、それは別にして、この後の手順がいろいろ示されましたよね。最終的には議会に条例と。でですね、この地域協議会がこれに対する取扱と、それからこれが決まっていく過程の中の住民との関係ですね。例えば、施設が、基本的には値段が上がっていくわけですかね。その場合、この地域協議会のこういった審議、今日で二回目だと思うのですが、その辺の兼ね合いはどのようにお考えになって説明なさっているのかちょっとお聞きしたいですね。まあ言ってみれば、ここにおける私どもが聞かせていただいている役割について、意味について、ちょっと教えていただければと思うのですが。

**【行政改革推進課 山田副課長】**

そうですね。重要な政策につきましては、いろいろな場面で説明をさせていただくということで、町内会なども含めましてさせていただいているところです。市の考え方のベースとなるものを参考にさせていただきながら、各地域の中でいろいろな課題というの、またそちらのほうに考えをおよんでいただけるというふうなことなのかなというふうに考えています。地域自治区の設置条例でしたでしょうか。そちらのほうには特には意見を伺うということは書いてはいないのですけれども、私共、特に今回のその行政改革大綱につきましては、通常ですと諮問機関ですから、審議会の議事、そこで市民の皆さんの一部から委員としていただくというふうなやり方もあるのですけれども、今回はそういった手法を取らずに、いろいろなところを回っていろいろなご意見をいただいて、それで成案といいますか、形としてやっていきたいなということで進めてまいりました。その中で、やはり地域協議会の皆さんからも御意見をいただきたいなということで今回進めてきたところがございます。

**【横田会長】**

分かりました。私が申し上げたのは、市民生活にすごく、あるいは皆さんがおっしゃった新しい公共にとか、そういうことにすごく影響する事柄ですよ。そういう意味で、この取扱いについて、最終的には議会決定、議会でね、審議なさるのでしようけれども、そういった関係の中の私の役割って何なのかなとちょっ

と思ったものですから、まあお話は分かりました。

他、あと皆さん方、若干まだ、お一人かお二人くらいあったらいただければ、いかがですか。よろしいですか。

はい。じゃ説明受けさせていただきましたので、大変御苦勞様でございました。ありがとうございました。ではこれはこれで終わらせていただきますので、行政改革推進課の皆さん方、ありがとうございました。御苦勞様でした。

— 行政改革推進課 退席 —

次に、次第4の報告事項の(2)「地域活動支援事業の課題と改善策について」入らせていただきます。事務局のほうで報告をお願いいたします。

【橋本センター長】

— 資料に基づき説明 —

【横田会長】

はい、ありがとうございました。これはかねていろいろ皆さんからも御審議いただいたり、また検討していただいた経緯がございます。今ほどの内容について、質問等がございましたらお受けしますので、いかがでございましょう。

これはじゃ、このように提出した扱いでよろしいでございませうか。

(よしの声あり)

はい、ありがとうございました。ではそのようにさせていただきます。

以上で、報告事項の(2)のほうを終了させていただきます。

それではですね。次第5の「意見交換」に入らせていただきます。今日は和田区のいろんなそういったデータを使っていただきながら、市の創造行政研究所の内海主任研究員がお出でいただいております。これから話をお聞かせいただきたいと思っております。いわば独自で勉強しましょうと、それで今後の活動とか、あるいは地域の皆さん方の関心とか、話題にできるだけ反映していこうということで、独自、主体的、自主的に今日は勉強会をやらせていただくということでお願いをした結果、創造行政研究所の内海さんのほうから御了解をいただきながら、この場ができた訳であります。是非、有意義な場にしたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

それでは内海さん、お願いします。

**【創造行政研究所 内海主任研究員】**

皆さんこんばんは。上越市役所の創造行政研究所から参りました内海と申します。よろしくお願いいたします。座らせていただきますが、お手元に資料を事前にお配りしております、あと今日は追加で1枚お配りしております。こちらをもとにですね、スライドのほうを見ていただきながらですね、適宜メモを取っていただければ幸いです。

**【横田会長】**

内海さん恐縮ですが、ちょっと説明に入る前に一言で結構ですから、創造行政研究所というのはどういうものなのか、一言でいいですからちょっとこう紹介していただければありがたいのですが。

**【創造行政研究所 内海主任研究員】**

すいません。ちょっと耳慣れない方もいらっしゃるかと思いますけれども、市の企画政策部の中にございまして、基本的には昔であれば企画課がですね行っていたような仕事の一部を行っております。今日お話しするようなですね、市の現状と課題を整理したりですね、市の内部に対して「もっとこういうことをした方がいいんじゃないか。」とか、政策提案をしていくような部署でございます。

ちょっと他の課と違って、現場を持っていない分ですね、違う角度で少しお話をできるのかなと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

今日、お話しするのが、人口と世帯数のお話でございまして。恐らくですね、皆さん和田区の人口、世帯数についてはむしろ日頃、生でお感じになられているかなと思うのですが、今日は改めてですね、数字等でご覧いただいて、何かしら今後の地域づくりをお考えの際に、参考になれば幸いです。

和田区というふうに書かせていただきましたけれども、先ずはですね、上越市全体の傾向についてお話させていただいて、それで和田はどうだということでごちよとお話をしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

— 資料に基づき説明 —

**【横田会長】**

はい、ありがとうございます。お忙しい中にも関わらず、よくぞここまでですね、お話をしていただいたと、資料を作りながらお話をしていただいたと、大

変ありがとうございました。従いまして、時間がですね、もうあと25分くらいですね、用意してありますので、せっかくの機会でありますので、只今のお話について質問、御意見、あるいは感想も含めてで結構でございますので、これから意見交換の時間を取らせていただきます。ただその間の中に委員同士の意見交換、それから内海さんとの意見交換、こういったこと、今申し上げた通り感想も含めてで結構でございますので、意義ある時間をちょっと過ごしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

あんまり司会のことを考えていただかないで、ポンポン、ポンポンと内海さんのほうと意見交換できればいいなと思っております。どうぞ一つよろしくお願いいたします。

どうぞ宮下さん。

**【宮下委員】**

新幹線ができた時に人口が減ると考えていますか、増えると考えていますか。

僕は減るんじゃないかと思えます。

**【創造行政研究所 内海主任研究員】**

ずるい言い方ですが、両方あると思えます。どのようにお考えですか。減るとお考えですか。

**【宮下委員】**

減ると思えます。出て行ってしまわないかと若者たちが。

**【創造行政研究所 内海主任研究員】**

ほかの方どうでしょうか。

**【水澤副会長】**

すいません。今の意見で、宮下さんが言っているみたいに減るという理由って。

**【宮下委員】**

若者が出て行ってしまおう。

**【水澤副会長】**

出て行ってしまおうと。

**【宮下委員】**

というのは短時間になりますから、ここで働くのもいいですけども、東京で働けますよね。2時間で帰ってくる人もいますよね。ある程度減っちゃうんじゃない

ないかなと。というのは上越新幹線、あそこだって減ってますよね。

【創造行政研究所 内海主任研究員】

減っているところあります。はい。

【宮下委員】

増えたんじゃないなくて減ってしまった。

【創造行政研究所 内海主任研究員】

ただ増えているところもあります。

【水澤副会長】

ですよ。すみません。今、上越市全体で考えるとその考えというのはたぶんあると思います。ただこの和田地区で言うと、逆にそれは今までも安定してきたとおっしゃったんですが、やはり出て行っても、高校、大学とかって地域外に出て行った人たちがまた帰って来ていたりそういうことがあって、そこからあとまあ就労があるかどうかだと思っんですよね。減るといのはやはり、どうしても働き場がないから減っていくので。新幹線駅周辺にいろいろなものが仮にできてきて就労の場ができれば、これもまた地域の人たちも地域内で働くことができるということ。それと上越地域全体から見ても、この地域に今まで高田、直江津、中心市街地からまたまちが動くということになるというふうに思っんですよね。楽観的に考えないでやっぱりその将来を、今も過去をずっと見てきて、あまり変化のない地域の和田地区が、ずっと変化がなかったもので、大きな変化が出るこの新幹線で、ずいぶんやっぱり変わるのではないかなと思います。どんと減るといお考えもあるかもしれないのですけれども、逆に高齢の方が、住みやすいところに来られる高齢者もいらっしゃるんじゃないかと思っんですし。本当にここが住みやすいかどうかになるんだと思っんです。すみません。住みやすくなってほしいということです。

【宮下委員】

僕は将来的には増えくんだけど、反対に言っただけだけれどね。

【水澤副会長】

だから魅力がここになればここから出ていくだろうし。魅力を感じればまたここに残る人、それから他から来る人が増えるのではないかなというふうに私は

思うんですけれども。

**【有坂委員】**

買物人口としては減る可能性がありますよね。ただ生活基盤、上越市に足場を置いている人は新幹線が来たことによって、開業したことによって、それが影響して減るというのは、私もちょっと分かんないですね。それはないんじゃないかと思えますけれどね。東京が近くなったと言ったって、今だって半日電車に乗れば東京に行けたんだから、そこでもっていくらでも仕事を求めようと思えばできたのですから。

**【宮下委員】**

来るのは2時間、1時間だよ。

**【有坂委員】**

うんでも、それが早くなったからって、就職先を全部東京に求めるって。今までだって、半日も電車に乗れば行けたとこなんだから。

**【水澤副会長】**

僕ら世代で言うと、正直ビジネスだとかで考えると、まだここはそんなに時短にはなっていないと思いますね。観光とかいう意味で今まで行けなかったところには近くに行けたりするかも知れませんが、逆に他からも近く来れるというか、時短で来れるというふうに思いますけれど。あまりビジネスで考えると、ここから東京までだったり、2時間が1時間50分になったりするぐらいの話で、そんなに大きな違いはないというふうに僕は考えますけどね。

**【横田会長】**

ちょっと高島さんあたりいかがでしょうかね。この近くにいろいろお住みになったり、活動なさって。これ今日で終わらないで、ここはちょっとまた継続版でやろうと思っていますので、率直に一つ。

**【高島委員】**

和田地区の人口の増減は今、話されましたけどもね。これ今、全体を説明された中で見ていると、先ほどこの前に上越市の行財政改革について話をされましたね。ああいったものを見ているとね、中心市街地のほうがますます高齢化してきてね、衰退していくようなところに、今度はやっぱり限られた予算の中で市政

を運営していくということになりますよね。これからやはり伸びるようなところには重点的に、それから今言うように若い人が住みつくような、そういう環境を作っていくのがかえって大事じゃないかなと思いますね。それには例えば今言うように、和田地区がいいのかどうかわかりませんが、和田地区はそれなりの環境が整っている部分もあるから、ますますそこに住んでいる人がやっぱり真剣になって、若い人に住んでもらえるようなね、場所にしていかなければならない部分があるなと思います。それとやはり、今のところはどうしても若い人が生活するのは何と言ったってお金ですよ。そういう働ける場、環境というのはその前にやっぱり整備していったらなければいけないなと思いますよね。そんなところをこうずっと説明を受けてみて考えました。

**【横田会長】**

八木委員さんいかがですか。なんなりと。

**【八木委員】**

細かく分析し、解析された資料をお聞きしました。これは今、現在、国内全体がね、そういう傾向でありますよ、それが上越市も同じですよ。そういう傾向が上越市のほうもありましたという今のところの結果だと思います。

それは今後どうあるべきかというものは、あくまでも国政のレベルでもいろいろとやっているだろうし、上越市でもいろいろと対策をやられている。ただし、非常に難しい問題だということです。

和田区のほうも今御説明あったとおり、過去、現在、未来を考えた時に、これから少し年数が掛かるけれども増えていく可能性はある。ただしその後、徐々に減ってくるだろうと。要するに、高齢者が、少子高齢化、これは同じことですので、この部分はいけるだろうと。ただこの和田区全体を見た時に、新幹線がらみとは言わん。ただ住宅団地、あるいはそういう類のものがこの新幹線の近くにできてきている。将来的にも出てくるであろうというものが予測されますので、その分はたぶん増えていくでしょう。

ただ、どちらかと言うと、和田小学校区と大和小学校区、矢代川を挟んで比較するのはあまりよろしいことじゃないんだけど、和田小学校区のほうはそういった住宅的なものが増えるというものはちょっとあまり見えないですね、今後。



どちらかと言うと、要するに農村、田んぼ、これらの農振地域がほとんどでございまして、あまり期待は持てない。減ってくるだろう。相対的に見た時はやはり、今後少しは大和地区の増える分が少し増えるだろうけれども、やはりその後は下がってくるだろうというふうに思います。

では、どういうね、あれかと言うと、先ほどもいろいろな委員の方もおられますけれども、ここに住みたいという環境があるのかなのか。私たちは希望的観測で、ここは非常に住みやすいのではないかなと思うけれども、外部から見た場合はどうなのかと。

それと、やはり今、全国的に東京へみんなその企業云々、関東のほうへね、たくさんのが上がり、商業ができていいるから、東京へ集中化してみんな行っちゃうんですね。その傾向は、この上越市から出る人、これも同じ例なんですけれども、やはりこちらのほうもそういった企業や施設、あるいはね、学校、病院を含めてね、いろいろなものがやはり表日本のこちらのほうに、地方分散というかな、都市に集中化するんじゃなくて、そういうものが実際やられた場合には、上越市、それからこの近郊も非常に人口が今度は逆に増えるであろう。勤め先のないところには来ませんよ。それは我々がどうこうという問題じゃない。国の問題であり、県、市のいろいろな力というものが必要なんじゃないかなという、非常に難しい問題だけれども、ここもやはりそういった未来志向を見てね、我々はいろいろな市の施策に対して注目していきたいなというふうに思います。

**【横田会長】**

はい、国のほうの話も、未来志向というキーワードが出たのですが、あのちょっと、発言のない方もいらっしゃいますので、まだしばらく時間ありますので、ここはという何か要点も含めながらですね、どうでしょう、植木委員さんあたりもしありましたら。

あの本当、今日はいろいろな広い面からお考えになっていることで結構ですからどうぞ。

もしあれでしたら鈴木委員、ございましたら。できたら簡潔、端的にお願いします。

**【鈴木委員】**

少子高齢が現実問題としてくると、やはり理解しておかなくてはならないと思いますし、いろいろなデータからして、確率とかね。その中で、特に人口構成等をできるだけ変化を少なくしていこうというのは、とりあえず今、我々レベルとして考えられるところかなと思うのですが、その変化をできるだけ少なくするために、じゃ当和田地区としてはどうするかということで、我々が今の時点でできることは、できるだけ和田地区の魅力を探し出す、それを改めて探し出して、それをうまく皆さんに理解してもらって魅力発信をしていくというところが、先ず取りあえずやれるところかなと思ったりしてるんですけどもね。

【横田会長】

はい、ありがとうございました。

大島委員さんどうぞ。

【大島委員】

先ほど、合計特殊出生率ですか。これをもう少し頑張ってもらおうというふうなことでね、行政あたりで特に報奨金あたりをつけて一つ大いに頑張っていたくように、力を入れていただくようなことも必要になってきますし、そして特に最近また、健康管理について、とてもいいあれですね、市ではある程度の年齢になると、何と言いますか、お金をかけて十分に一つ健康管理をするようにというようなことに力を入れているようでございますね。その点では非常にいいと思いますし。その辺あたりをうんとですね、これからやはり力を入れていく部分ではないかなというふうに思うんですね。

【横田会長】

はい。あの植木委員さんいかがですか。まだ時間ありますんで。

【植木委員】

なかなかちょっと。どうしたらいいのかという答えがね。まあ現状を見ていると、先ほど八木委員さんおっしゃられたように、上箱井も新しく団地ができた。住宅団地ができていいる所は人口が増えているんですね。結局、そういう移転の関係があるものですから、特定の地域に集中して増えるという、増やすために団地造成をやるわけなのですけれども。それはたまたま今、和田の中でも上箱井の住宅団地の関係で軒数が増えてきておりますし。上箱井としては2.5倍の世帯に

なってきたおるわけなので、物理的にはそういう形で増やしていく、それは当然なにか持っていかないと、ただ増やすという形には向いていかないのでしょうけれども、やはり生活を基盤とする住宅地としての利便性、これから新幹線含めて交通の便の利便性を含めて、そういう形でもう少し増える可能性はあるのではないかなということを思いますけれども。

**【横田会長】**

はい、ありがとうございました。あのちょっと私一言だけ感じたことは、今日冒頭からすごくですね、迫力のあるというか、宮下委員から人口が減るのではないかと。流出こういったお話があって、いやそうかなと。こういったところは非常にかなり、衝撃的な議論というか、意見のスタートだったという気がするのです。

私はですね、私はというか、ちょっと私もいつも思うのですが、まだまだ東京ってそんなにいいのっていつも思うんですよね。だから地方に住むより東京ってそんなにいいのかなと、暮らしたいのかなと。大学もいっぱいあるし、何でもある。どうも私はそんな気が一つ、今日はちょっと思い出したんですね。

それからもう一点は、最近仕事の関係で、観光白書というのをずっとひっくり返してみています。時にちょっと見ているのですが、観光がどうしたこうしたではなくて、すごく国民が移動しているなど、それは今流の言葉でいくと何か交流みたいなことなんです、そんなのがですね、非常に印象的な中で、今日の報告の中で、和田というのは長い間安定しているということと、それからそれはバランスがいいんだというお話。そういうことを考えますと、ちょっと新幹線のところに戻りますけど、私は和田だけで考えていきながら、場合によってはですね、板倉との関係はどうなのか、あるいはさっきの転入、転出の資料の中に、妙高市との関係も出てきたわけですね。あるいはひょっとすれば、山麓線を通ってきて、板倉との関係も出てくるかも知れない。で、和田を基礎に置きながらも、若干そういうことを展開しながらちょっと話し合ってみることも今後あってもいいのかなと。私なんかは何かそういうところもちょっとおもしろいのではないかなと。あまりここというふうには考えないですね。そういう意味で、この新幹線の、先ほど鈴木委員もおっしゃったけれども、新しい特性とか素材探してみたいのが、協力し合ってできないのかな

みたいな感じがちょっとしています。

最後になりますが、私はこの間の新聞に、上越教育大学の学長さんと看護大学の学長さんの対談が新聞に出ていましたが、これはすごくこう勇気づけられたということなんです。やっぱりいろいろな人が入ってくる、交流する、情報が入り出す、その大変な道具がこの辺、あるいは新幹線周辺なんだろうと。だからここを大学として、このまま指をくわえて見ているわけにはいかないだろうというふうに、双方の御意見が出ていたのですが。できたらその記事をちょっとコピーして次の時に用意したいと思っていますが、まあそんなふうにちょっと考えたわけでありまして。まあどっちがいいのか分かりませんが。まあひとつ、今後今日で終わらないで次のですね、また欠席委員の方もいらっしゃるの、このことで時間を取って、お互いに委員だけで意見交換をしていくと。そのことがやっぱり地域づくりの一つの手立てになるんじゃないかというふうに感じた訳であります。時間まいりましたので、最後、内海研究員さんのほうから、こういった今のやり取りも含めてですね、皆さんの意見をあれしながらちょっとコメントいただいて、このところは終わらせたいと思っておりますが、よろしくひとつお願いします。

**【宮下委員】**

ちょっといいですか。

**【横田会長】**

はい、どうぞ。

**【宮下委員】**

すみません、誤解招くと。この地区が大好きで来た人間なんだけど、ただ心配しているのは、浦佐みたいにならないように、というつもりで発言しておりますので。第二の浦佐にならないように注意して頑張ってほしいと思います。

**【横田会長】**

すいません、私もちょっと言い方が悪かったかも知れませんが。そういうこう問題提起があったので、宮下さんの本音はここにお住みになってこの前、委員になった時のね、志も言われたようなことなので、良くしていきたいな。今日の人口論が一つ出てくるんだというお話だとちゃんと理解しておりますので、ちょっと

言葉が足りなかったかも知れませんが、是非次の議論になっていければいいなと思っています。

格別ほかに、皆さん付け足すことございませんか。何度も申しあげたように、今日は結論を見出すのではなくて、新しいスタートだと考えていますので。よろしいですか。

じゃ内海さんちょっとコメントいただいて。

**【創造行政研究所 内海主任研究員】**

改めまして、勉強させていただくことも非常にありまして、私のほうがお礼を言わなければいけないので、ありがとうございます。

あえて一つですね、ちょっと広げるような話を少し、投げかけさせていただいてちょっと帰りたいなと思っています。

一つは地域の魅力という言葉がすごく出てきたなと思います。住宅団地という話も出てきました。私それ自体は非常に大事だとは思うのですけれども、たぶんその近所の方、例えば上越市内の方が住みたいと思うような、買物が便利だとか、車が使いやすいとか、そういうところだと思うのですけれども、もし東京のほうから人に来てもらいたいとか、そういう視点になると、むしろ古いまちがいいとか、すごく自然の多いところがいいとか、ちょっと魅力というというのは、見る人によって違ってくるんじゃないかなというところではありましたので、ちょっとそこも広げてお考えいただけると、ありがたいなというところもありました。

そういう意味で言うと、高田との関係というのもすごく大事で、今日の話だともしかしたら中心地はこっちにという話もあったと思うのですけれども、でもたぶん高田には高田しかないものがあって、それが外の人から見たときどういうふうに映るのかないうことで。高田との連携みたいなことも、隣の地区でもありますので一つあるのかなと思いました。

最後に、あえて逆説的なことばかり言って申し訳ないのですが、住宅団地は非常にいいのですけれども、もしそこだけだと、東京なんかもそうですけど、一時に人が、同じ世代ががっと増えると、そうしますと数十年後経つと一気にまた高齢化するというようなことがありますので、ちょっとこう長い目でですね、継続してどういふふうにかこう考えていっていいかなということも、プラスでちょっとお知恵をい

ただけというか、投げかけばかりで申し訳ないのですけれども、非常にちょっとまた私も勉強させていただければと思っていますので。また差し支えなければたまにはこう、また皆さんの議論をですね、拝見させてもらえればありがたいなと思っています。今日は本当にありがとうございました。

**【横田会長】**

はい、大変どうもありがとうございました。お忙しいのにね、こんなふうに資料を用意していただいて、大変どうもありがとうございました。またその上、場合によっては声をかけろというふうにおっしゃっていただいて、これもまたありがたいなと思っていますので、引続きよろしく申し上げます。

ではこの辺で意見交換のほうを終わらせていただきます。

繰り返しになりますが、また次の機会にこういうことを設けて、お互いにやっていければいいなと思っています。改めて、内海さんどうもありがとうございました。

**【創造行政研究所 内海主任研究員】**

どうもありがとうございました。

**【横田会長】**

なから予定どおりの時間で進行してございます。

最後と言いますか、次第の6の「事務連絡」に入らせていただきます。事務局のほうでお願いします。

**【橋本センター長】**

はい、それでは事務局から最後、事務連絡、1点でございます。次回の12月協議会の予定でございます。12月協議会を予定をいたしておりますが、日程につきましては12月の上旬の方向で、今後また皆さんのご都合を伺いながら、決定をさせていただきたいと思っています。内容については、今のところは活動支援事業に関するものなど、特にルールに関してまた皆さんの御協議をいただければと思っています。また、これにつきましても、また追って御案内をさせていただきたいと思っております。以上でございます。

**【横田会長】**

今の事務連絡について御質問ございますか。よろしいですか。

(よしの声あり)

はい、ちょっと私のほうでお願いっていうか。今日、水澤委員が副会長に決まったのですが、欠席委員の方も多かったので、何らかのこう周知というか案内を、文章か何かでやっていただければありがたいなと思っていますので、事務局のほうでよろしくお願いします。大体終わったところでありますが、水澤さんどうですか、もし何かございましたら。よろしいですか。

**【水澤副会長】**

一言だけ。先般、大和倶楽部との懇談会があって、私も、それから有坂委員もメンバーに入っていますけれども。若いこれからの倶楽部メンバーがまたこういうところで、機会を持ってね皆さんとこういう意見交換ができれば素晴らしいことかなというふうに感じましたし、本当に今後また機会があったらまたお願いしたいなというふうに思います。今日の話なんかもやはり若い人が聞いたら、またずいぶんやっぱり参考になるんじゃないかなと思いますし、また魅力ある地域を作ってもらえるのも若い人たちなのでね、そんなことも含めてよろしくお願いたいと思います。

**【横田会長】**

はい。この場だけではなくて、時間があれば輪を広げていくということはいいことだと思いますし、そういう意味で水澤副会長さんの大和倶楽部だけではない、そっちのほうのつながりについてもまたお力添えいただければと思います。

では今日はこれで終わらせていただきます。長時間ありがとうございました。

**9 問合せ先**

自治・市民環境部 自治・地域振興課  
南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

**10 その他**

別添の会議資料もあわせて御覧ください。